

日帰り観光周遊交通におけるスケジューリング行動の調査分析

広島大学大学院国際協力研究科 学生会員 ○野崎康秀
 広島大学大学院国際協力研究科 正会員 藤原章正
 広島大学大学院国際協力研究科 正会員 杉恵頼寧
 森山地域計画研究所 正会員 森山昌幸

1. 背景と目的

近年、わが国では労働時間の短縮や週休 2 日制の導入により自由時間が増し、国民の余暇活動を重視する意識が強まっている。そのため観光・レクリエーション需要が増大しており、特に過疎化の進む中山間地域では、観光需要の増大は地域活性化にもつながる重要課題である。中山間地域の事業を評価する際、平日の交通量の少ない中山間地域では平日の交通量を対象としている費用便益分析を用いるとその値は低いものとなる。しかし地域活性化に対する観光の重要性を考えると、その地域の道路網が観光地へのアクセス及び周遊ルートである場合、道路整備による時間短縮が観光需要に及ぼす影響を考慮する必要がある。杉恵他¹⁾は、ルート選択とスポット群選択という 2 段階の階層構造を持つ観光周遊行動モデルを提案した。しかし、各観光スポットの滞在時間は移動時間の変化に関わらず一定と仮定し外生的に与えていた。そこで、本研究ではスケジューリング段階での時間配分モデルを構築するために、予備的研究として時間配分に影響を及ぼす要因の調査と分析を行うことを目的とする。

2. 調査の概要

島根県中央部の観光圏域を対象としてアンケート調査を実施した。調査票は各スポットの説明書と調査票から構成され、調査票では①社会経済属性、②時間配分（SP 調査）について尋ねている。②では 6 種類の周遊パターンを想定してもらい、それぞれ自宅出発時刻・観光スポット滞在時間・自宅到着時刻を記入してもらう。

表 1 調査の概要

対象地区	松江市・出雲市を中心とする市町村
対象世帯	自由に使用できる自動車を所有し、対象地区への日帰り観光が可能な世帯
調査方法	企業・団体への訪問留置回収法
実施時期	平成 10 年 11 月
配布数	800
回収数	722（回収率 90.3%）
有効回答数	671（有効回答率 83.9%）

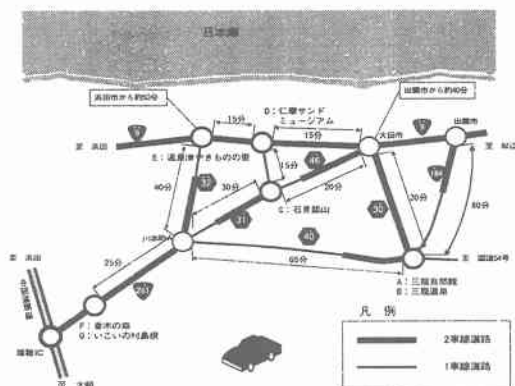


図1 対象地域の道路ネットワーク図

3. 個人属性による影響分析

(1) 自宅出発時刻と自宅到着時刻

図 2 より 50 代までは、年齢が高くなるにつれ自宅出発時刻が早くなり帰宅が早くなるのが分かる。また図 3 より、女性よりも男性のほうが、未婚者よりも既婚者のほうが出発時刻が早く、帰宅時刻が早くなるのが分かる。

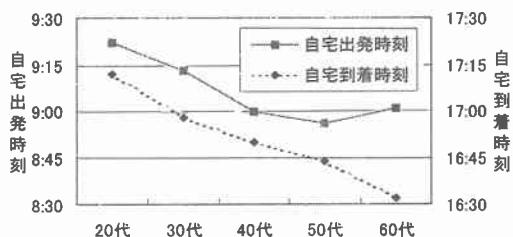


図2 年齢別自宅出発時刻・自宅到着時刻

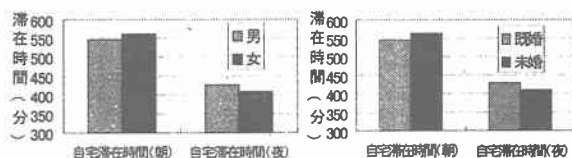


図3 男女別・結婚別自宅滞在時間

(2) 観光スポット滞在時間

図4より三瓶温泉や石見銀山は年齢が高い方が滞在時間が長く、香木の森やいこいの村は年齢が低い方が滞在時間が長いことが分かる。図5を見ると、三瓶温泉や石見銀山は「運動」や「体験」の評価が低く、それぞれ「保養」・「見る」に特化しており、香木の森やいこいの村は「運動」や「体験」の評価も高くバランスのとれたスポットであることがわかる。

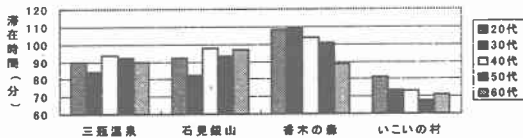


図4 年齢別観光スポット滞在時間

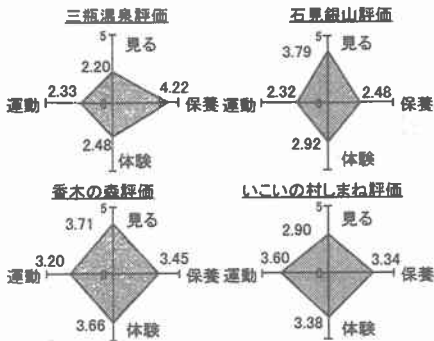


図5 観光スポットの属性評価

図6、図7から男性より女性のほうが観光スポット滞在時間が長く、既婚者より未婚者のほうが滞在時間が長いことが分かる。

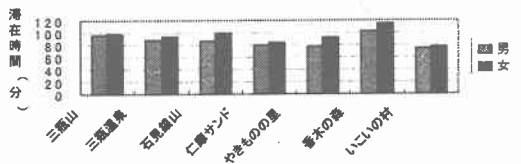


図6 男女別観光スポット滞在時間

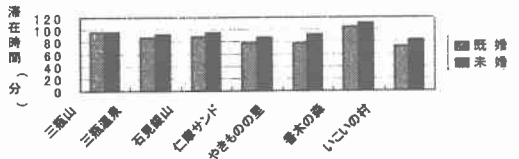


図7 結婚別観光スポット滞在時間

4. 周遊行動による影響分析

(1) 自宅出発時刻と自宅到着時刻

図8から訪問スポット数が多いほど自宅出発時刻が早く、自宅到着時刻が遅くなることが確認できた。

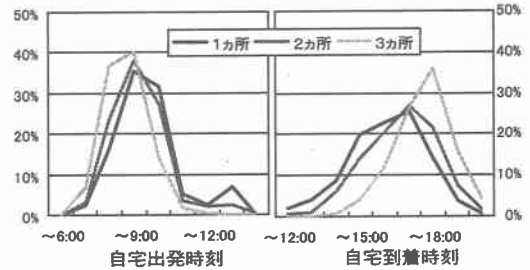


図8 訪問スポット数別自宅出発時刻及び自宅到着時刻の分布

(2) 観光スポット滞在時間

図9より訪問スポット数が多いと1箇所あたりの滞在時間が短くなることがわかる。

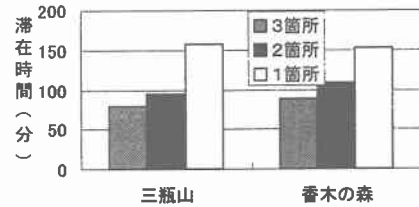


図9 訪問スポット数別スポット滞在時間

5. 結論

本研究ではスケジューリング段階での時間配分モデルを構築するために、予備的研究として調査と分析を行い、時間配分に影響を及ぼす要因を明らかにした。

謝辞

S P調査の実施にあたり、鳥根県道路建設課の木佐氏及び市川氏には多大な協力を頂いた。ここに記して謝意を表す。

参考文献

- 1) 杉恵・藤原・奥村・張・森山：道路整備が観光周遊行動に及ぼす影響の分析，土木計画学研究講演集，No.21(2)，pp603-606，1998。